

平成 27 年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム

報告書

平成 27 年 12 月 11 日

目 次

1	はじめに	02
2	取組の経過	03
3	重点課題	
	（1）岩美町地域創生総合戦略を踏まえて	04
	（2）重点課題とした3つのプロジェクト	05
4	施策の提案	
	（1）テーマ別の施策概要と提案事業	06
	（2）提案事業の詳細	07
	「若者の交流」に関する提案	08
	「男女の交流・結婚」に関する提案	10
	「定住・起業支援」	12
5	おわりに	17

1 はじめに

岩美町では、平成26年5月に日本創生会議が発表した市区町村別人口推計²において、本町が「消滅可能性都市」のひとつに定義されたことを契機として、それまで取り組んできた定住人口対策施策を更に強化するため、若手を中心とした職員の柔軟な発想や斬新なアイデア等を活かした立案・提案を行うことを目的に、平成26年度から平成27年度までの2年間「岩美町定住対策プロジェクト・チーム」を設置することとしました。

平成26年度は、チームメンバー（21名）を、自然動態対策部会（10名）及び社会動態対策部会（11名）の2部会に分け、自然動態対策部会の目標を「平成33年度 出生数を100人に」、社会動態対策部会の目標を「女性がひとりでもチャレンジでき、住まえる環境づくり」と設定し、その目標を達成するための各種施策を提案しました。

平成27年度においては、前年度予算化されなかった提案、検討不足であった事項等を重点的に取り組み、平成27年9月に策定された「岩美町地域創生総合戦略（以下、「総合戦略」）」で示されている「人口ビジョン」、「人口減少対策の基本的方向」を踏まえながら、当プロジェクト・チームとしての施策立案、提案を行い、総合戦略中の「重点戦略」で掲げられている事業と併せて実施していくことで、本町が目指している「チャレンジする若者が集うまち」を若者自身の力で実現していくことを目標としました。

本年度は、チームメンバー（18名）を「若者の交流」（7名）、「男女の交流、結婚」（6名）、「定住、起業支援」（5名）と、前年度より具体的なテーマで3グループに分け、より重点的な施策の立案を行うため、研究・検討を重ねてきました。本報告書は、総合計画、総合戦略等に掲げられる定住人口対策を進める上で、地域の様々な課題を解決していくために真に必要であると考えられる施策を平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チームの提案としてまとめたものです。

¹ 「10年後の世界・アジアを見据えた日本全体のグランドデザインを策定する」ことを目的に平成23年に発足した民間の会議体

² 提言「ストップ少子化・地方元気戦略」において、人口移動が収束しない場合の全国市区町村別2040年推計人口

2 取組の経過

平成 26 年度岩美町定住対策プロジェクト・チームは、自然動態対策と社会動態対策の両面から併せて 24 の施策を提案し、12 事業が事業化等により実現しました。（参照：資料 1）

実現した事業の中でも、結婚記念写真撮影費助成事業、乳児用おむつ購入費助成事業、子育て世帯等住宅新築・リフォーム資金助成事業（拡充）などは、他市町村で行われていないことから独自性・新規性が強く、また、他市町村が行う同様の制度に比べて手厚い支援内容となっていることから、特に、助成対象となる結婚を機に新しい家族を築く夫婦、子育てが本格的に始まった保護者、これから新居を構え新しい生活をスタートする子育て世帯の家族など今後地域を担っていく若い世代から好評を得ています。

一方で、提案した施策の数が 24 と多く、また、ターゲットの規模や役場の事務量等を的確に把握した上で、事業の内容や数を精査することが不足した部分もあり、実施困難な提案があったことは、反省すべき点でありました。これを踏まえ、本年度は、より具体的で実現の可能性の高い施策を提案するため、特に検討すべきテーマを絞った上で、3 グループ編成で作業していくこととしました。

平成 27 年度岩美町定住対策プロジェクト・チームは、各課から推薦を受けた職員（10 名）と岩美町地域おこし協力隊員（6 名）に事務局職員（2 名）を加えた計 18 名で構成しました。計 8 回の全体会議では、ワークショップの手法を取り入れることにより、メンバーが意見を出しやすいよう工夫したほか、テーマごとの詳細な検討作業は少人数グループで進め、また、民間団体や企業との意見交換を行いました。

3 重点課題

（１）岩美町地域創生総合戦略を踏まえて

岩美町の人口は、昭和 25 年（1950 年）に 20,519 人³とピークを迎え、その後急速に人口減少が始まり、平成 22 年（2010 年）には 12,362 人⁴となりました。また、平成 25 年に国立社会保障・人口問題研究所が公表した数値では、25 年後の平成 52 年（2040 年）には 7,666 人になるとの推計も示されています。

急速に進む人口減少に歯止めをかけ、岩美町が持続・発展していくため、平成 31 年度までの 5 年間に重点的に取り組むべき施策等を策定した総合戦略では、人口ビジョンとして、平成 52 年（2040 年）に約 9,000 人、平成 72 年（2060 年）に約 7,500 人という人口目標を設定しています。合計特殊出生率の向上と社会増減ゼロへの取組によりこの数値を目指すものですが、社会増減による人口減は、若者の進学、就職、結婚等による転出が大きな要因の一つであり、如何に若者の流出を食い止め、流入を促すかという点が重要となります。そのためには、若者にとってより魅力のあるまちにすることが必要であることから、総合戦略では、「チャレンジする若者が集うまちをめざして」という方向性が掲げられています。

今年度、当プロジェクト・チームが行う施策の立案、提案については、総合戦略に掲げられている「チャレンジする若者が集うまち」を若者自身の力で実現していくことを目標に、仲間づくり、意識改革、行動力の向上、夢の実現のサポートなど、若者に対して直接的にアプローチする 3 つのプロジェクトを重点的に取り組むこととしました。

（２）重点課題とした 3 つのプロジェクト

① 若者の交流

人口減少により生じる様々な問題は、特に若い世代の減少に起因するところが大きいと考えられます。総合戦略のとおり、地域の持続・発展のためには、若者が町に魅力を感じ、生き生きと活動できる環境づくりが必要です。

³ 国勢調査

⁴ 国勢調査

しかしながら、若者人口そのものの減少によるほか、家庭、仕事、余暇等若者を取り巻く環境の変化により、かつての青年団活動のように若者が集まって様々な話をする機会が失われつつあります。若者の意見が出にくくなり、若者にとっての地域の魅力が失われていくと、更に若者が流出するという悪循環に陥ります。

若者が地域の未来を考え、声に出し、行動に移すきっかけを創るため、まず、若者の仲間づくりを促進する必要があります。

② 男女の交流・結婚

人口減少問題の中でも特に深刻な問題である少子化の要因のひとつとして、晩婚化、未婚化による出生数の減少が挙げられ、本町の未婚率は、20代後半～40代前半で44%⁵との数値も示されています。

晩婚化、未婚化は、ライフスタイル・価値観の変化、女性の社会進出、経済格差等の影響により、結婚に対する意識が変化し、出会いの機会が減少したことが直接の原因であると考えられ、ある民間企業の研究によれば、その原因の割合は、「出会いが10%、総合人間力⁶の低下が90%」と言われています。

人口の維持に向けて結婚を促進し、出生数を増やすためには、まず、個人の意識改革を促すことで男女の交際や結婚に対する不安の解消に繋がるとともに、男女が出会う機会を作ることが必要です。

③ 定住・起業支援

特に若い世代の移住・定住を促進させるためには、「住まい」と「仕事」の両面からの支援が求められます。しかしながら、住まいや店舗となる物件は少なく、空き家バンク登録物件も多くはありません。移住希望者を定住に繋げるには、地域側の受入体制を充実させることも重要な課題です。

定住・起業について、土日に対応できる相談窓口や、町内出身の経営者や、移住者との意見交換ができれば、サポート体制をより強化することができます。

「住まい」と「仕事」についてワンストップで相談できる体制が必要です。

⁵ 岩美町地域創生総合戦略より。(平成22年国勢調査人口等基本集計より算出)

⁶ 政府関連のある報告書によると、人間力とは、「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と定義。また、結婚・恋愛心理カウンセラーの本城稔氏は、男女交際や結婚に向けて、配慮ある積極性や行動力、肯定的な言葉表現、相手の心の動きを理解する力などの総合人間力の養成が必要であると提唱。

4 施策の提案

(1) テーマ別の施策概要と提案事業

① 若者の交流

【施策概要】

若者が気軽に集うことができる交流の場として、定期的に決まった場所で交流会を開催します。また、その交流の場を通じて、若者の地域への愛着心や地域社会への貢献意識を高めるための学びの機会を創出するとともに、各種媒体を活用して広く啓発を行います。

事業No.	事業名	頁
1	若者交流プロジェクト・交流会開催事業	P08
2	若者交流プロジェクト・宣伝啓発事業	P09

② 男女の交流・結婚

【施策概要】

若者が自分に自信を持ち、男女の交際や結婚に対し肯定的になれるよう、“総合人間力”の向上を目的とした研修会を開催します。

また、町外の方が町内の方と結婚し移住するきっかけをつくるため、岩美町ならではの仕事やレクリエーションを体験しながら、町内外の男女が交流するイベントを開催します。

事業No.	事業名	頁
3	気づきと勇気づけの意識改革プロジェクト事業	P10
4	岩美町にお婿さんを！プロジェクト事業	P11

③ 定住・起業支援

【施策概要】

やる気のある若者が1人からでもチャレンジできる仕組みを作ります。

「定住」については、不動産業者の持つ情報も含め、町内の物件情報を集約することで、若者が1人でも住むことのできる受入環境を整備します。空き家所有者と入居希望者をつなぎ、岩美町で実現

できるワーク・ライフ・バランスの紹介や、四季折々の地域の魅力を発信することで、IJU ターンの促進を目指します。

「起業」については、創業時の支援を強化・拡充し、町内の支援者とのマッチングを行います。

事業 No.	事業名	頁
5	空き家コーディネーター配置事業	P12
6	移住・定住アドバイザー設置事業	P13
7	岩美DE！家をもらおう！事業	P14
8	岩美起業村（シェアオフィス）設置事業	P15
9	新規事業チャレンジプロジェクト	P16

（２）提案事業の詳細

提案する 9 つの事業の詳細は、以下のとおりです。

各事業の詳細では、「内容」の欄で当プロジェクト・チームが提案する事業の内容や考えられる実施例を挙げています。また、「ポイント」の欄においては、当該事業の特徴点や実施する上で重要となる考え方等を示しています。最後に、「効果」の欄では、事業の実施により期待される効果に加え、総合戦略における重要業績評価指標（K P I）のうち当該事業に関係すると考えられる項目を挙げています。

事業 No. 1

事業名	若者交流プロジェクト・交流会開催事業	概算事業費	300 千円
テーマ	若者の交流	実施主体	実行委員会

【内 容】

若者の仲間づくりの場として、20～40 代の若者を対象に、気軽に参加できる交流会「ヨリアイ！（仮称）」を定期的に開催します。

一年目は、趣味や職業などをテーマにした交流会をメインとし、敷居を低くすることで交流の裾野を広げます。二年目は、一年目にできた繋がりを軸に、交流会に加えて、地域の活性化等について考えるためのワークショップや座談会などを同時開催することで、学びの要素を取り入れます。交流と学びを通して、仲間づくりと自発的な取組が生まれることを目指します。

- ・実施主体 若者交流プロジェクト実行委員会（仮称）
[メンバー：うみねこ舎⁷、公募町民、担当課及び有志職員]
- ・開催場所 コミュニティカフェ ニジノキ
- ・開催回数 計6回程度（例：7月～12月の毎月最終土曜日）
- ・テ ェ マ 趣味、文化、職業等毎回異なるテーマを設定
（例：音楽、スポーツ、アニメ、料理等 これに季節感をプラス）
- ・そ の 他 毎回、次回以降の参加費に充当できるポイントを参加者に付与。
- ・必要経費 実行委員会補助金（会場経費、募集・受付経費、事務用品費）
※ 飲食費については参加者の自己負担

【ポイント】

- ◇ 移住者が中心となり町の活性化を目的に活動している「うみねこ舎」との協働により、民間のアイデアを活用した事業展開が期待できます。
- ◇ 実行委員会方式により、誰もが参加しやすい雰囲気を作ります。
- ◇ 会場を固定し定期的に開催することで、本事業の認知度を高めるとともに、参加者同士が繋がりやすくなります。
- ◇ 参加回数に応じたポイント付与により、複数回の参加を促します。
- ◇ 初参加者及び初参加者を同伴したリピーターを優遇することで、より多くの方の参加を促します。
- ◇ これまで取り組んできた「若者サロン」の次なる展開として位置付けることもできます。

【効 果】

- 親睦を深めたり、情報を交換したりする場として古来より用いられてきた“寄り合い”の現代版として、若者同士の交流の裾野が広がります。
- まちづくりに関心を持つ人材の発掘・育成に繋がります。
- 関連するKPI：民間団体・個人が主催する若者の交流イベント数 外2項目

⁷ 地域おこし協力隊員など町外からの移住者で組織する地域活性化団体。岩美の魅力をデザインし、全国へ発信しようと平成27年7月に発足。当面は、メンバーの個人事業として、コミュニティカフェやシェアハウスの開業を目指す。また、団体としてWe bを活用した岩美の魅力発信に取り組む。現在、メンバーは5名。

事業 No. 2

事業名	若者交流プロジェクト・宣伝啓発事業	概算事業費	400 千円
テーマ	若者の交流	実施主体	実行委員会

【内 容】

事業 No. 1 の交流会「ヨリアイ！（仮称）」の認知度を高め、参加者の確保につなげるため、ホームページ、紙面、SNSなどを活用した宣伝活動を展開します。

併せて、若者が地域のために行動するきっかけとなるような啓発も行います。

- ・実施主体 若者交流プロジェクト実行委員会（仮称）
- ・内 容（Webサイトによる宣伝）
 - 若者交流プロジェクトの目的や趣旨などを紹介
 - 交流会「ヨリアイ！（仮称）」の開催予告、参加受付
 - 交流会の開催レポート
 - 若者主体の先進団体の紹介（特集・コラム形式）
 - SNS（例：LINE@）を活用した情報発信・Webサイトへの誘導
 - （各種媒体を活用した啓発）
 - 岩美町チャンネルを活用した啓発番組の企画・制作
 - ポスター・Tシャツ等印刷物
 - 季刊誌の発行
- ・必要経費 実行委員会補助金（サイト構築・運営経費、印刷費、取材経費等）
 - ※ Tシャツを販売するなど自己財源を得る方策も検討

【ポイント】

- ◇ 事業 No. 1 と同様に「うみねこ舎」との協働により、民間のアイデアを活用した事業展開が期待できます。
- ◇ 交流会の画像を多用した開催レポートを発信することで、初参加者の抵抗感を軽減します。
- ◇ SNSの活用で認知度を高めるとともに、交流会と交流会の間（1か月間）を切れ目なく情報発信します。

【効 果】

- 交流会の効果を促進するとともに、宣伝や啓発を通して若者の行動意欲の増進に繋がります。
- 関連するKPI：民間団体・個人が主催する若者の交流イベント数 外2項目

事業 No. 3

事業名	気づきと勇気づけの意識改革プロジェクト事業	概算事業費	2,500 千円
テーマ	男女の交流・結婚	実施主体	町

【内 容】

結婚推進に当たり総合人間力向上の必要性を提唱し、その継続型研修において日本一の成婚率を誇るという心理カウンセラー・本城稔氏（株）I.B.P 総合研究所 代表取締役所長）と協力し、動機付けのための講演会、意識改革のための継続した研修会、実践としての婚活イベントなどを一連の流れで実施し、未婚者のコミュニケーション能力の向上、恋愛に対する積極性の向上を図ります。

- ・委託先 (株) I.B.P 総合研究所
- ・事業の流れ
 - ①動機付けの講演会（全3回）
（1回目は女性のみ、2回目は男性のみ、3回目は男女混合）
 - ↓
 - ②総合人間力アップの研修会（男女それぞれ2時間×6回）
（岩美町在住者または出身者）
 - ↓
 - ③イベント本番さながらのリハーサル研修（1回）
 - ↓
 - ④男女の交流イベント（1回）
- ・経 費 ①②③④の講師料、会場経費、募集経費等
ただし、④の飲食代等は参加者負担。

【ポイント】

- ✧ 講演会によりきっかけづくりをすることにより、メイン事業である研修会参加への抵抗感を和らげるとともに、認知度の向上を図ります。
- ✧ 研修会は、時間をかけて継続的に実施することで、総合的な人間力の向上に必要な様々な能力（共感力、対人関係力、柔軟対応力等）を身につけることができます。

【効 果】

- 総合人間力を磨くことにより、コミュニケーション能力や恋愛に対する積極性の向上に繋がります。
- この研修では、個々の能力アップに繋がるため、結婚推進のみならず、今後地域を担っていく人材育成の役割も果たします。
- 関連するK P I：結婚組数

事業 No. 4

事業名	岩美町にお婿さんを！プロジェクト事業	概算事業費	400 千円
テーマ	男女の交流・結婚	実施主体	町

【内 容】

地域外に住む女性を呼び込み、地域の男性と交流していただくイベントはよくあります。しかし、その逆で、町外の男性（＝お婿さん）を呼び込むイベントは、ニーズがあるにも関わらずほとんど例がりません。

そこで、主に、町外の男性と、町内在住（又は町出身）の女性を対象とした交流イベントを開催します。参加者に岩美町の魅力を存分に感じてもらい、移住定住に繋げるため、イベント内容は岩美町ならではの仕事やレクリエーションの体験を通した企画とします。

- ・実施主体 町
- ・情報発信 ホームページ、SNS
- ・対 象 者 岩美町在住、岩美町出身の女性
岩美町に定住してもいいと考えている町内外の男性
- ・年 齢 20 歳から 40 歳
- ・内 容 バーベキュー、釣り、シーカヤック、農業体験等岩美町ならではのレクリエーションや仕事を男女と一緒に体験
- ・経 費 体験費用、会場借上費、町内の移動経費、県外参加者への交通費補助
ただし、飲食代等は参加者負担。

【ポイント】

- ◇ 岩美町のお婿さん（マスオさん）になってもらうことを念頭に、女性参加者については、町内在住又は町出身の方に限ります。
- ◇ 岩美町ならではのイベント内容とすることで、町内外の若者に岩美町の魅力を知ってもらいます。
- ◇ 県外からの参加者に対し交通費の一部を支給することで、県外在住者が参加しやすくします。

【効 果】

- 男性を町外在住者に広げ、かつ、女性を町内在住者に絞ることで、流入促進と流出抑制の両方に効果があります。
- 岩美町の魅力をPRすることに繋がり、町外参加者が岩美町への移住を考えるきっかけとなります。
- I.B.P プロジェクトによる研修事業との連携により、相乗効果が期待できます。
- 関連するKPI：結婚組数

事業 No. 5

事業名	空き家コーディネーター配置事業	概算事業費	2,500 千円
テーマ	定住・起業支援	実施主体	町

【内 容】

町内に増え続ける空き家を利活用するため、家主へのアドバイスや、家を借りたい人とのマッチングを行う空き家コーディネーターを配置します。空き家についての情報は常に変化しており、人が住まなくなった家は、急速に老朽化していきます。そこで、毎年定期的に空き家調査を実施することで、遊休不動産の状況把握と活用をめざします。空き家調査には、行政職員だけでなく、地域住民、建築施工業者などの専門家や、移住を検討している県外出身者なども参加できる機会を設け、地区ごとに町歩きをたのしみながら、空き家の把握とその活用方法を考えていきます。

＜空き家コーディネーターの仕事＞

- ・ 空き家調査の定期開催、情報発信
- ・ 空き家情報の整理（築年数、間取り、賃貸・売買の可否、家主の意向など）
- ・ 家を借りたい人と家主とのマッチング
- ・ 空き家活用税金減免事業（実施主体：税務課）
→町内に空き家を持つ者が、県外からの転入者に家を貸すと、その分の税金を減免。

【ポイント】

- ◇ 空き家調査を定期的に行うことで、老朽化で使えなくなる前に活用でき、改修費を軽減できます。
- ◇ 「空き家は資産であり、まちの魅力を高める可能性を秘めている」ことを浸透させていきます。
- ◇ 「知らない人に家を貸したくない」「貸してもいいが、改修費はあまり支出したくない」など、家主の不安を軽減させられるように相談にのり、家の有効活用を考えていきます。

【効 果】

- 遊休不動産を活用し、その空間を楽しく活気ある空間にリノベーションしていきます。
- 「住まい」となる物件を確保することで、岩美町への移住を希望する人を受け入れることができます。
- 若者が1人でも住める環境をつくることで、Uターン・U移住の推進にもつながります。
- 関連するKPI：空き家活用情報システムによる入居世帯数

事業 No. 6

事業名	移住・定住アドバイザー設置事業	概算事業費	450 千円
テーマ	定住・起業支援	実施主体	町

【内 容】

町内出身の経営者や移住者が相談役となり「いわみ移住・定住アドバイザー（仮）」のネットワークを構築し、土日でも対応できる民間の移住定住相談窓口を設置します。移住希望者の相談内容や、住みたい地区に合わせて、アドバイザーが対応するので、移住後の暮らしや働き方のイメージがつきやすく、相談しやすい環境をつくることができます。また、行政では対応しきれない場合にもアドバイザーが対応。転入前に、入居者と地域の方をつなぐ役割を担い、移住後も、地域との関係づくりをサポートします。

- ・実施主体 いわみ移住・定住アドバイザー（仮称）
 [メンバー：町内出身の経営者、移住者などから約 20 名、公募]
- ・総合窓口 岩美町地域創生室
- ・Web 窓口 「いわみ移住・定住アドバイザー」専用問い合わせフォーム
- ・その他 アドバイザーには、1 回の相談につき日当を支給。半日 3,500 円程度。
- ・必要経費 移住・定住支援補助金（町内案内経費、人件費、事務用品費）

【ポイント】

- ◇ 土日でも対応可能な相談窓口を設置できます。
- ◇ 相談内容に合わせて、アドバイザーが対応します。
- ◇ 移住前だけでなく、移住後も相談役となり移住者のサポートをします。
- ◇ 移住者の実体験などを通してアドバイスすることができます。
- ◇ 岩美町での暮らしなど、岩美の魅力を発信します。

【効 果】

- 土日祝日しか来ることができない移住希望者にも対応することで、移住定住を促進します。
- アドバイザーそれぞれの暮らし方や働き方を紹介することができ、移住希望者に合ったワーク・ライフ・バランスを提案できます。
- 地域の方や民間団体とともに、IJU ターンの受入環境を整えます。
- 関連する K P I：県内外からの移住相談数 外 1 項目

事業 No. 7

事業名	岩美 DE！家をもらおう！事業	概算事業費	17,200 千円
テーマ	定住・起業支援	実施主体	町

【内 容】

単身者以外の若年層夫婦、または家族で岩美町に定住し、かつ、15 年間指定の住宅で賃貸料を滞りなく支払うと、16 年目にその住宅を贈呈します。売買可能な空き家を購入・管理し、定住の推進を行う事業です。

- ・必要経費 住宅購入費 540 万円×3 件
 ※540 万円の物件購入の場合、家賃 3 万円×180 ヶ月＝540 万円を相殺で実質 0 円
 住宅改修費、15 年間の維持管理費 1,000,000 円

【ポイント】

- ◇ 定住を目指し、誰もが負担になる住居を岩美町が提供することで、移住の促進を狙います。
- ◇ 15 年目の賃貸契約の後、土地、建物を入居家族に贈呈します。
- ◇ わかりやすく、インパクトのある事業を実施することで、県外への PR につながります。

【効 果】

- 家計の 2 割を占める住宅ローンの実質無償化にて若年層夫婦を呼び込むことができる。かつ、生活に余裕ができることから、家族構成人数の増加にも期待できます。

	30歳未満	30歳代	40歳代
可処分所得	379,699円	403,449円	476,488円
住宅ローン返済額	65,935円	74,921円	72,953円
住宅ローン返済割合	17.4%	18.6%	15.3%

(参考：総務省発表資料)

- 15 年という長期の実施期間により、子育てを含んだ計算ができます（子育て期間の 小・中・高と子育てに一番、経費がかかる期間の負担軽減とともに、その後の住宅ローンが発生しないのが魅力です）。
- インパクトのある事業で、目につきやすく、メディアで取り上げてもらうことで、移住希望者への訴求効果があります。
- 地域に若い家族が入ることで、地域行事の参加などによる活性化が期待できます。
- 関連する K P I：県外からの移住者数

事業 No. 8

事業名	岩美起業村（シェアオフィス）設置事業	概算事業費	4,200 千円
テーマ	定住・起業支援	実施主体	民間企業等

【内 容】

町内の空き家、商店街等を活用し、新規事業を考えている若年層（35 歳以下）を対象として共同オフィスを設けます。プリンターやFree Wi-Fiなどを共有で使えるように設置。また、開業1年目は、家賃を免除し、運転資金にまわせるよう資金面でもサポートします。定期的に共同でイベントを実施することで、それぞれの事業PRにもつなげていきます。

- ・実施主体 指定管理団体を公募
- ・物件 個人事業主5名程度が共同で事務所として使える空き家
※会社として登記可能な物件
- ・共有備品 プリンター、電話、インターネット、テーブル、椅子、エアコン
- ・対象者 町内で新規事業をはじめる35歳以下の者
- ・必要経費 改修費 2,000,000 円
備品リース代 1,000,000 円
水道光熱費 1,200,000 円

【ポイント】

- ◇ 遊休不動産を活用し、事務所・店舗を提供します。
- ◇ 起業したい人と、町内の支援者とのマッチングを行います。
- ◇ 資金、物件、人材といった面で、創業時の支援を強化、拡充します。
- ◇ 町内事業者を対象に、後継者支援、継業の推進を行います。

【効 果】

- やる気のある若い人材が集まり、新しいまちのコンテンツを集積させることで、まちに変化を起こします。
- 新規事業を複数行うことで、まちの活性化につながります。
- 若年層を誘致することにより、岩美町の人口増加を推進します。
- 増えていく遊休不動産を活用して、若者が多様なプロジェクトを推進し、活気ある空間を作り出していきます。
- 関連するKPI：起業・創業件数 外2項目

事業 No. 9

事業名	新規事業チャレンジプロジェクト	概算事業費	1,000 千円
テーマ	定住・起業支援	実施主体	町

【内 容】

町内で新規事業を始める方の経費を補助します。観光振興、民宿経営、商品開発、岩美の食、子育て支援などテーマを設けて、事業案を募集し、各テーマの優秀賞受賞者には、事業実施のための補助金と、町内支援者の紹介を行います。募集は、町内に限らず、大学などにも情報を発信し、様々な提案を受け入れます。

- ・実施主体 岩美町
- ・優秀賞 全体で5名程度 ※テーマによって該当者なしの場合あり
- ・必要経費 補助金：事業実施の経費の2/3（上限100万円）

＜想定されるテーマと事業例＞

- ・観光振興：着地型観光ツアー、体験メニューの提案など
- ・民宿経営：廃業民宿の再生、民宿経営塾、継業など
- ・商品開発：特産品のパッケージデザイン、小包装の加工品開発など
- ・岩美町の食：次世代へ岩美の食を継ぐプロジェクト、グルメイベントなど
- ・子育て支援：地域の食材で食育サポート、高齢者との交流イベントなど

【ポイント】

- ◇ 事業の準備段階から資金面でサポートします。
- ◇ 発想力のある学生にもチャレンジする機会を与えることができます。
- ◇ 岩美町に求められていることを動的に考え、行動するプロセスをつくります。

【効 果】

- 新規事業を促進することで、地域の活性化につながります。
- 若者のチャレンジを支援し、“なりわい”づくりを地域一丸となって応援します。
- いいアイデアを提案で終わらせず、カタチにします。
- 関連するKPI：起業・創業件数 外2項目

5 おわりに

冒頭でも触れたとおり、平成 27 年度岩美町定住対策プロジェクト・チームは、前年度に提案した施策の問題点、反省点等を踏まえ、取組を強化すべきポイントを重点化し、かつ、実行性のある施策を提案すべく研究・検討を重ねてきました。時を同じくして、国を挙げての地方創生の取組が本格化し、本町においても、平成 27 年 9 月 4 日に岩美町地域創生総合戦略が策定されました。また、若い移住者で組織する地域活性化団体・うみねこ舎が発足し、コミュニティカフェ整備等の具体的なプロジェクトも動き始めました。

そのような状況下にあって、今回提案する施策は、総合戦略の基本的な理念がベースとなっており、結果、総合戦略中に掲げられる重要業績評価指標（K P I）を達成するための一助になるものと考えています。「若者の交流」についての提案では、うみねこ舎のような団体から刺激を受け、そのような活動を自発的に行う人材が増えることを狙っています。また、「定住・起業支援」では、そのような人材が行動に移すための支援・受入れの体制を整えることを主眼としています。一方、「男女の交流・結婚」については、これまで“出会い”の支援が中心であった考え方を一転し、個人の“人間力”の育成に焦点を当てるというもので、結婚支援のみならず、地域の人材育成にも通ずるものと考えております。

このように、それぞれの施策に共通する部分があり、連携して取り組むことによって更なる効果を生むことが期待されるとともに、やる気のある若者や民間事業者等と連携し、そのノウハウ、技術等を最大限に活用することが重要であると考えます。本報告書の内容は、主に、施策の必要性やそれを実施する上でのポイントとなる事項を示していますので、数あるアイデアや選択肢の一つとして活用いただければと考えます。

平成 27 年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム

報告書【資料編】

資料 1	平成 26 年度岩美町定住対策プロジェクト・チームの提案事業について 1
資料 2	平成 27 年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム名簿 2
資料 3	平成 27 年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム全体会議の履歴 3
資料 4	平成 27 年度岩美町定住対策プロジェクト・チームの提案事業の添付資料 「若者交流」に関する提案 4 「男女の交流、結婚」に関する提案 9 「定住、起業支援」に関する提案 12

平成26年度岩美町定住対策プロジェクト・チームの提案事業について

No.	立案部会	事業名・事業概要	実現状況	当初予算額 (千円)	該当部署
1	全 体	子育て・移住定住特設サイトの設置 結婚、子育て、仕事、住居等の情報を特設サイトで紹介。	○	0	企画財政課
2	全 体	子育て・移住定住ワンストップ窓口の設置 移住定住希望者が活用できるワンストップ窓口の設置。	○	0	企画財政課
3	全 体	地域創生本部、地域創生室の設置 地域創生の推進体制を図るため本部、創生室の設置。	○	3,772	企画財政課
4	自然動態 対策部会	結婚記念写真撮影サービス事業 婚姻届提出者に記念写真プレゼントの実施。	○	1,500	企画財政課
5	自然動態 対策部会	婚姻届提出記念サービス事業 結婚記念月に町内店舗で使えるバスカードを配布。	×	0	企画財政課
6	自然動態 対策部会	新婚世帯家賃補助制度(拡充) 新婚世帯への家賃補助制度を拡充。(年齢制限、実質家賃負担額要件の緩和)	○	0	住民生活課
7	自然動態 対策部会	おむつ購入費助成事業 1歳児までの乳児用おむつ代を助成(上限10,000円)	○	3,300	住民生活課
8	自然動態 対策部会	地域の食材で食育サポート事業 子どもの成長段階に応じた町内の食材と、食事レシピを配達。	×	0	産業建設課
9	自然動態 対策部会	誕生日お祝い事業 平成27年4月以降に4～6歳の誕生日を迎える子どもに図書カードを贈る。	○	238	住民生活課
10	自然動態 対策部会	子育て情報提供サイトの設置 携帯電話を活用した情報提供サイトを構築し、メルマガ等を用いて子どもの成長段階に応じた情報提供をタイムリーに行う。	○	400	住民生活課
11	自然動態 対策部会	子育てポイントの活用 子育て講座、イベント等への参加を促進するため、「子育てポイント」を付与。ポイントに応じて町特産品等をプレゼント。	○	0	住民生活課
12	自然動態 対策部会	イクメン養成講座 男性が子育てや家事に参画し、楽しみながら子育てできるスキルを身につける。	○	891	総務課
13	自然動態 対策部会	じじばばの知恵袋塾 地域の高齢者とのふれあいを通して、親子の育ちを促す。	×	0	教育委員会
14	自然動態 対策部会	アニメとコラボした婚活事業 アニメロケ地を舞台とした婚活事業の実施。	×	0	企画財政課
15	自然動態 対策部会	地域リーダー養成事業 各地区の若者を対象とした、地域リーダー養成の研修会を実施。	×	0	教育委員会
16	社会動態 対策部会	地域ビジネス・マッチング支援事業 ワンストップ窓口等の設置 地域ビジネスマッチングの支援を行う、ワンストップ窓口、特設ウェブサイトの設置。	×	0	商工観光課
17	社会動態 対策部会	地域ビジネスマッチング事業 初期人件費の支援 地域ビジネスマッチング支援事業の特設ウェブサイトを活用して新たに事業を行う起業家等へ、人件費の一部を支援。	×	0	商工観光課
18	社会動態 対策部会	地域ビジネス創業支援事業 地域密着型企業創業支援プロジェクト事業 既存の国県補助金をフル活用するため、創業支援事業計画を策定。	○	0	商工観光課
19	社会動態 対策部会	地域ビジネス創業支援事業 新規創業・開業支援事業(拡充) 地域ビジネス創業時に、条件付きで雇用要件を3年間猶予。	×	0	商工観光課
20	社会動態 対策部会	地域ビジネス創業支援事業 サテライトオフィス整備支援事業 既存の県補助金(サテライトオフィス@とっとり事業補助金)に上乗せして補助金を交付。	×	0	商工観光課
21	社会動態 対策部会	遊休建築物再活用事業 町内の空家、空き店舗を町が借り上げて補修し、企業者に貸し付け。	×	0	商工観光課
22	社会動態 対策部会	UIJターン空き家活用事業(拡充) 町と町内民間事業者が、空き家情報を共有し、空き家活用の活性化を図る。	×	0	企画財政課
23	社会動態 対策部会	空き家活用モデル事業(田後地区) 空き家を活用したモデル事業(田後地区)を実施し、地域の活性化を図る。	×	0	商工観光課
24	社会動態 対策部会	住宅新築リフォーム資金助成事業(拡充) 子育て世帯・近居世帯及び3世代同居世帯の助成金額の拡充。	○	14,000	住民生活課

平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム名簿

No.	氏名	所属班	役職	所属部署	役職
1	川口 知彦	若者交流	チームリーダー 班長	環境水道課	主任
2	牧野 尚人	若者交流	班員	産業建設課	主事
3	澤井 祐太	若者交流	班員	教育委員会	主事
4	澤 朋美	若者交流	班員	商工観光課	主事
5	岸本 美鈴	若者交流	班員	住民生活課	主事
6	澤 有里子	若者交流	班員	総務課	主事
7	片山 じゅり	若者交流	班員	教育委員会	地域おこし協力隊
8	島田 啓希	男女の交流、結婚	サブリーダー 班長	教育委員会	主事
9	山本 真裕	男女の交流、結婚	班員	福祉課	社会福祉士
10	島本 理代	男女の交流、結婚	班員	教育委員会	地域おこし協力隊
11	岩田 薫	男女の交流、結婚	班員	企画財政課	地域おこし協力隊
12	大西 弘透	男女の交流、結婚	事務局	企画財政課	主事
13	宮内 あすか	男女の交流、結婚	事務局	企画財政課	主事
14	田中 泰子	定住、起業支援	サブリーダー 班長	商工観光課	地域おこし協力隊
15	間瀬 武志	定住、起業支援	班員	商工観光課	地域おこし協力隊
16	小林 晶	定住、起業支援	班員	商工観光課	地域おこし協力隊
17	松本 千晴	定住、起業支援	班員	健康対策課	主任保健師
18	土師 吉貴	定住、起業支援	班員	税務課	主事

平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム全体会議等の履歴

- 平成27年 4月23日・・・平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チームリーダー任命
- 平成27年 4月24日・・・平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チームメンバー募集
- 平成27年 5月15日・・・平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チームメンバー決定
- 平成27年 5月20日・・・平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム 第1回全体会議開催
- 平成27年 5月29日・・・平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム 第2回全体会議開催
- 平成27年 6月10日・・・平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム 第3回全体会議開催
- 平成27年 7月 6日・・・平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム 第4回全体会議開催
- 平成27年 8月 5日・・・平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム 第5回全体会議開催
- 平成27年 9月 2日・・・平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム 第6回全体会議開催
- 平成27年 9月29日・・・平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム 第7回全体会議開催
- 平成27年10月27日・・・平成27年度岩美町定住対策プロジェクト・チーム 第8回全体会議開催

若者交流プロジェクト

～若者が集い、笑い、挑戦するまちを目指して～

岩美町定住対策プロジェクト・チーム
若者交流グループ

1

なぜ今、若者の交流が必要なのか

- ・ 若者の減少（転出超過、少子化）
- ・ 気の知れた友人が転出（仕事、学業）
- ・ 働き方の変化（就労形態、産業構造）
- ・ 家庭環境の変化（核家族、男女平等、価値観）

⇒仲間が作りにくい状況

⇒集まりや催しが衰退または減少

⇒若者の意見や発想が表に出にくくなる

⇒若者にとっての面白くない地域に

⇒地域への愛着・誇りが持てなくなる

⇒町全体の活力が失われていく

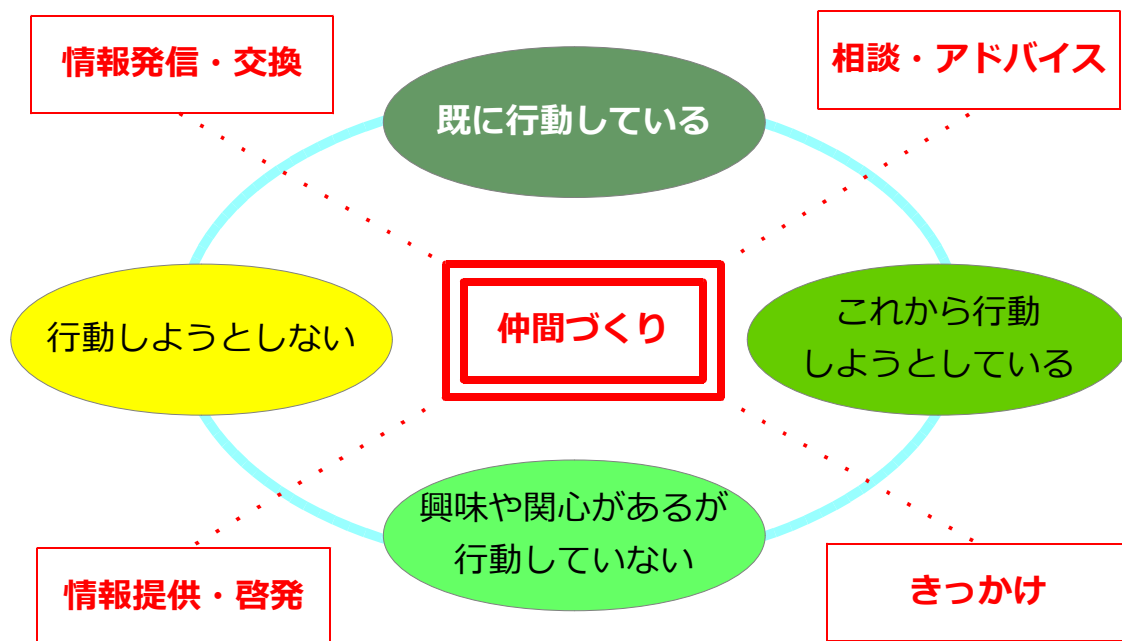
~~悪循環~~



若者同士の“つながり”を増やし、仲間を作りやすく

2

仲間づくりによって狙う効果

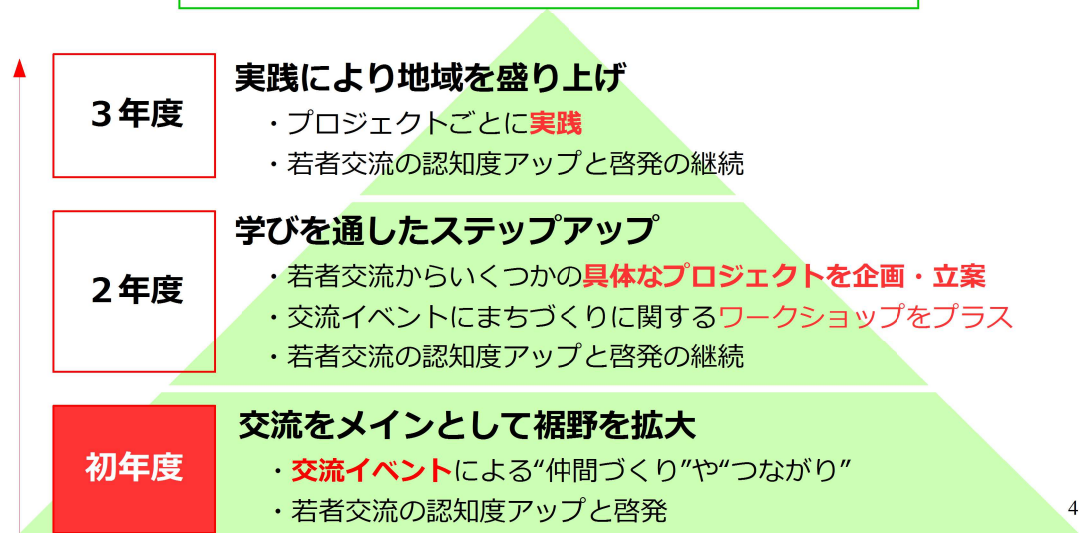


3

若者交流プロジェクトの展開イメージ

プロジェクト初年度は、「交流」をメインに展開し、次年度以降はステップアップしていくイメージで展開していく。

以降、各々のプロジェクトの主体的な活動をフォロー



4

若者交流プロジェクト（初年度）の概要

若者同士の交流を深めるためのイベント「ヨリアイ！」を核として、ネット上でのつながりや広報媒体を駆使した意識の啓発を行う。

若者を対象とした交流会「ヨリアイ！」の定期開催

- ・月に一度、定期的開催の若者ための交流パーティー
- ・知り合いを増やし、新たな仲間をつくるきっかけ
- ・次のステップに繋げるためのマーケティングの場

効果促進



Webサイト・SNS

- ・継続的なつながり
- ・情報発信
- ・波及効果



連 携

宣伝・啓発

- ・認知度の向上
- ・意識啓発
- ・イメージ戦略

効果促進



5

実施主体は官民協働の実行委員会

フランクな交流会の開催をメインとしているため、行政の色を出し過ぎないよう、また、機動的な運営が出来るよう実行委員会形式を採用する。

若者交流プロジェクト実行委員会

<役場>

- ・担当職員
- ・若手職員
(事務局)

<うみねこ舎>

- ・移住者
- ・地域おこし協力隊OB
- ・CAFE ニジノキ

<公募の若者>

うみねこ舎とは…

地域おこし協力隊員など町外からの移住者で組織する地域活性化団体。岩美の魅力をデザインし、全国へ発信しようと平成27年7月に発足。当面は、メンバーの個人事業として、CAFEやシェアハウスの開業を目指す。また、団体としてWebを活用した岩美の魅力発信に取り組む。現在、メンバーは5名。

6

若者交流プロジェクトの内容

①「ヨリアイ！」開催事業（メイン事業）

月に一度、決まった曜日・決まった場所で開かれるフランクなパーティー形式の交流会「ヨリアイ！」。様々な価値感、興味を持った若者のため毎回違ったテーマを設定し、知らない人同士が気軽に交流できる企画・空間づくりを行い、若者の交流拠点とする。

（内容）

- ・主催者：若者交流プロジェクト実行委員会
- ・参加者：仲間づくり、まちづくりに興味・関心のある若い世代
- ・場 所：CAFE ニジノキ
- ・テーマ：趣味、文化、職業等毎回異なるテーマを実行委員会で決定
例）お酒、音楽、スポーツ、アニメ、料理…etc. これに季節感を+αすることも検討
- ・知らない人同士が集う仕組み：
参加ポイント「ヨリポ！」を付与。初参加者等には更にポイントをプラス…etc.
ヨリポ！を溜めると参加費として使用可能。
- ・経 費：実行委員会補助金 50千円×回数（会場経費、事務用品費、受付経費等）
※ただし、飲食に係る経費は参加者負担とする。

（効果と目標）

若者同士のつながりを増やすことで、将来的に新たな取組・活動が生まれるような仲間やコミュニティがつけられることを狙う。また、交流会を若者へのマーケティングの場と捉え、次年度以降の取組や定住施策につなげる。

7

若者交流プロジェクトの内容

②Webサイト運営（効果促進事業）

「ヨリアイ！」の趣旨や事業内容への理解を深めるとともに、月に一度の交流イベント（メイン事業）を有機的につなげるため、Webサイトでの情報発信を行う。

また、意欲的に活動している若者主体の団体を取り上げ紹介するなど、新たな活動への波及を狙う。

（内容）

- ・企画運営：若者交流プロジェクト実行委員会
- ・Webサイトの内容：
 - 若者交流プロジェクトの目的・趣旨・概要
 - ヨリアイ！の開催予告、参加受付
 - ヨリアイ！の開催レポート（なるべく参加者の顔が分かるよう写真を多用）
 - 若者主体の団体紹介（特集・コラム形式）
 - 同時にSNS「LINE@」を活用。クーポンの発行やHPへの誘導。
- ・経 費：実行委員会補助金 300千円（サイト構築・運営経費、取材経費）

（効果と目標）

口コミやネット上のつながりを通じて「ヨリアイ！」の認知度を高め、交流会の集客につなげるとともに、切れ目ない情報発信により交流会～交流会の間をつなぐ。

8

若者交流プロジェクトの内容

③宣伝・啓発（効果促進事業）

宣伝により「ヨリアイ！」及びプロジェクト全体の認知度を高め、Webサイトへの誘導、交流会への参加を促進する。併せて、宣伝とは別に、「地域のために何ができるのか」などを考えさせるような啓発を目的とする広報も展開する。

（内容）

- ・企 画：若者交流プロジェクト実行委員会
- ・事業内容：
 - 岩美町チャンネルを活用した啓発番組の企画・制作。「プロジェクトY」
 - ポスター、Tシャツ等印刷物の制作・Tシャツ販売
 - ヨリアイ！の関連記事、団体の特集記事を含む季刊誌の発行
- ・経 費：実行委員会補助金 100千円
（ポスターデザイン・印刷費、Tシャツデザイン費、季刊誌編集・印刷費等）

（効果と目標）

本プロジェクトにあまり興味を持たないような人々にまず興味を持ってもらう。また、「ヨリアイ！」の宣伝に収まらず、若い世代が積極的にまちづくりに関わっていく必要性を訴えかける。

男女の交流・結婚プロジェクト

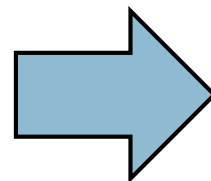
～男女の交流を促進するきっかけづくりを目指して～

岩美町定住対策プロジェクト・チーム
男女の交流、結婚グループ

提案事業

気づきと勇気づけの意識
改革プロジェクト事業

岩美町にお婿さんを！
プロジェクト事業



男女の交流・結婚へ



事業内容

(気づきと勇気づけの意識改革プロジェクト事業)

【内容】

結婚推進に当たり総合人間力向上の必要性を提唱し、その継続型研修において日本一の成婚率を誇るという心理カウンセラー・本城稔氏(株)I.B.P総合研究所 代表取締役所長)と協力し、動機付けのための講演会、意識改革のための継続した研修会、実践としての婚活イベントなどを一連の流れで実施し、未婚者のコミュニケーション能力の向上、恋愛に対する積極性の向上を図ります。

・委託先 (株)I.B.P総合研究所

気づきと勇気づけの意識改革プロジェクト事業

①動機付けの講演会(3回)
1回目女性のみ 2回目男性のみ 3回目男女混合

②総合人間力アップの研修会(男女2hずつ×6回)
(岩美町在住または出身者)

③本番さながらのリハーサル(1回)

④婚活イベントの開催(本番1回)



※経 費 ①②③④の講師料(1講演15万円～25万円)
会場経費、募集経費等
ただし、④の飲食代等は参加者負担

総合人間力
アップ

実践

結婚

事業内容

（岩美町にお婿さんを！プロジェクト事業）

【目的】

地域外に住む女性を呼び込み、地域の男性と交流するイベントはよくあります。しかし、その逆で、町外の男性（≡お婿さん）を呼び込むイベントは、ニーズがあるにも関わらずほとんど例がありません。

そこで、主に、町外の男性と、町内在住（又は出身者）の女性を対象とした交流イベントを開催します。参加者に岩美町の魅力を存分を感じてもらい、移住定住に繋げるため、イベント内容は岩美町ならではの仕事やレクリエーションの体験を通した企画とします。

岩美町にお婿さんを！プロジェクト事業

主 催：町

募集方法：ホームページ、SNS

対 象 者：岩美町在住・岩美町出身の女性
岩美町に定住してもいいと考えている町内外の男性

年 齢：20歳から40歳

イベント：BBQ、釣り、シーカヤック、農業体験等

経 費：体験費用、会場借上料、町内の移動経費
県外参加者への交通費補助
ただし、飲食代等は参加者負担



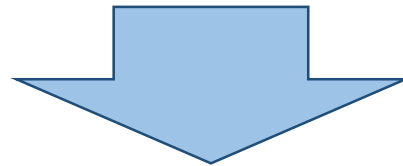
若者が起業にチャレンジでき
定住できる環境づくりをめざして

岩美町定住対策プロジェクト・チーム
定住、起業支援グループ

移住定住を促進させるためには「住まい」と「仕事」の
両面からの支援が求められる

【現状と課題】

- 人口流出、若者減少、高齢化、後継者不足
- 住まいや店舗となる物件、空き家バンク登録物件が少ない
- 定住、起業について土日の相談窓口がない
- 情報発信がうまくできていない



「住まい」と「仕事」についてワンストップで相談に乗れる体制が必要

やる気のある人が1人からでもチャレンジできる仕組み

【方向性】

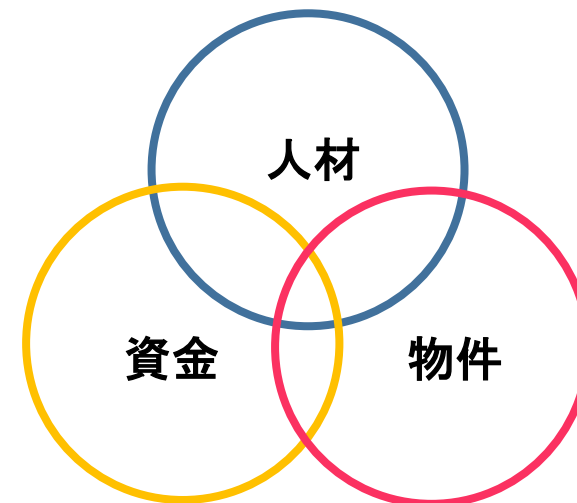
定住

- ・ 若者1人でも住める環境づくり、受入環境の整備
- ・ 「住まい」となる物件の確保、不動産業者の持つ情報も提供
- ・ 県外に地域の魅力や岩美での暮らし方を発信
- ・ Uターンの推進

起業

- ・ 遊休不動産を活用し、事務所・店舗を提供
- ・ 起業希望者と町内の支援者マッチング
- ・ 創業時の支援を強化・拡充
- ・ 後継者支援、継業の促進

創業時の支援



①空き家事業

◎地域創生室に空き家コーディネーターを配備

- 空き家調査の定期開催

⇒ 行政職員その他、専門家、地域の方や岩美町への移住を検討している人など一般参加者も参加できるように情報提供し、地区ごとにまち歩きを楽しみながら、活用できる空き家探しとその活用を考える。空き家は資産であり、まちの魅力を高める可能性を秘めていることを浸透させていく。

- 空き家情報の整理

- 家主へのアドバイス

- 空き家活用で税金減免

⇒ 空き家を県外からの転入者に貸すと、その分の税金を減免する。

- 借りたい人と家主のマッチング

②住もう！ 事業

◎移住定住アドバイザーの民間窓口の設置

- ・移住定住相談の土日対応

⇒ 町内出身の経営者、移住者などが相談役となり、「移住定住アドバイザー」のメンバーを構成し、土日も対応できる体制をつくる。

- ・地域との関係づくりをサポート

- ・入居前に、入居者と地域の方をつなぐ。地域のキーマンを紹介したり、挨拶まわり、地域で気を付けることなどを確認する。

◎岩美DE!家をもらおう！

- ・若年層夫婦（単身者以外）、家族で岩美に移住し、かつ15年間指定の住宅で賃貸料を滞りなく支払えば、16年目にその住宅を贈呈。

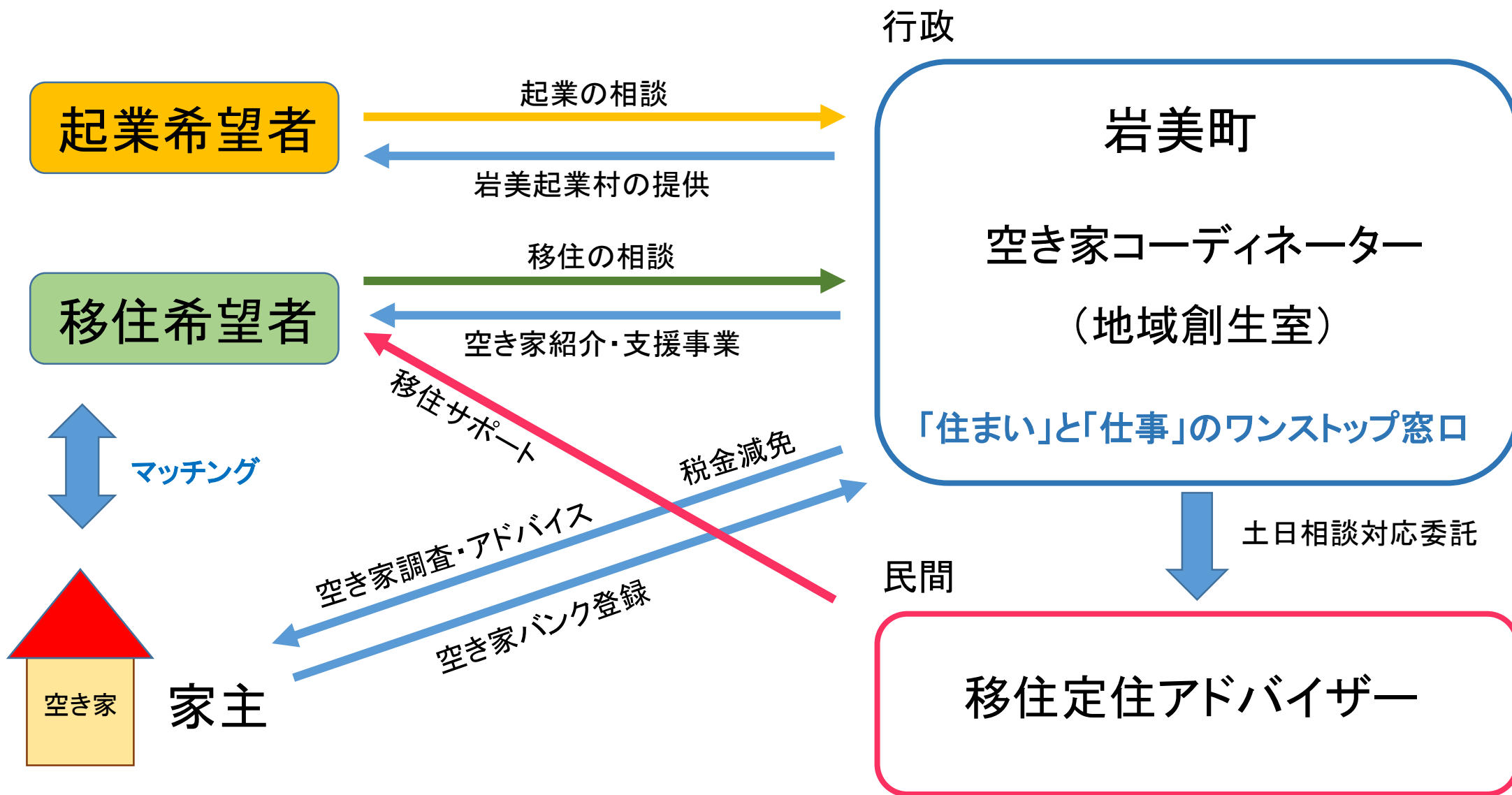
③起業支援事業

◎岩美起業村(シェアオフィス)の設置

- 遊休不動産を活用し、新規事業者を対象とした共同オフィス
- 共有備品として、デスク、イス、プリンター、Free Wi-Fiの設置
- 開業1年目の家賃を免除

◎岩美で新規事業チャレンジ企画

- 新規事業を始める方の経費を補助
- 観光振興、民宿経営、商品開発、岩美の食などテーマを設けて事業案を募集。選考後、各テーマの優秀賞を受賞した方に、事業実施のための補助金を出すことで、動的に考え、行動するプロセスをつくる。



テーマ

遊休不動産の活用×若者のチャレンジ

コミュニティの再生

多様で活力のある世代間が
交流するソーシャルネット
ワークの構築

Jump

まち全体の魅力が高まる

Step

まちに変化が現れはじめる

Hop

遊休不動産を活用し、多様なプロジェクトを推進
若者がチャレンジ！



期待される効果

- 若者のチャレンジを支援し、“なりわい”づくりを地域一丸となって応援する。
- 増え続ける遊休不動産を活用し、その空間を楽しく、活気ある空間にリノベーションしていく。
- やる気のある人材が集まり、新しいまちのコンテンツを集積させることで、まちに変化を起こす。
- 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現。
- 地域の方や民間団体とともに、IUターン者の受入環境を整える。
- わかりやすく、インパクトのある事業実施で、県外にアピールする。